

## 健康福祉指導課

＜議 案＞

＜議案第1号 令和2年度千葉県一般会計補正予算（第4号）＞

（質問）

生活福祉資金貸付事業推進費補助金について、県内市町村の貸付申請数と支給状況はどうのようになっているのか。ろうきんと日本郵便の取扱状況も含めて伺う。

（入江委員）

（回答）

6月26日現在の貸付申請は22,921件、このうち貸付決定したものは20,043件である。全ての市町村から申請が上がってきてているが、千葉、松戸、船橋など大都市で多い件数となっている。ろうきんと日本郵便の窓口を通じた申請は、併せて1,289件という状況である。

（田中健康福祉指導課長）

（質問）

ろうきんや日本郵便の取扱いが4月末、またその後にも始まったということで、件数もかなり大きく取り扱っていただいている状況である。この貸付事業は7月末までの申請受付が9月末まで延長されたとのことである。これまでの支給件数等は先ほど質問したが、この先の見通しはどのように想定しているのか。

併せて、過去の経済危機であるリーマン危機や、東日本大震災、昨年秋の房総半島台風の時にも、この生活福祉資金が緊急的に緩和され貸付が行われたが、この時と比較して支給件数や支給状況がどのようになっているのか伺う。

（入江委員）

（回答）

この先の見通しについて、具体的な状況がいつまで続くのか想定するのは難しいが、現状としては貸付の申請ペースは落ちていない状況であり、今後、国の二次補正予算等も活用し、必要な原資については確保してまいりたいと考えている。

また、過去の事例との比較については、リーマンショック、東日本大震災、昨年の台風

の時に、制度の拡充や特例貸付が行われているが、この時と比較しても、貸付件数、金額ともにきわめて多いという状況である。

(田中健康福祉指導課長)

(質問)

貸付件数や金額について、具体的な数字があつたら教えてもらいたい。

(入江委員)

(回答)

具体的には、リーマンショックの時の貸付件数が5, 216件、東日本大震災の時が169件、昨年の房総半島台風の時が28件である。

(田中健康福祉指導課長)

(質問)

金額も教えてもらいたい。

(入江委員)

(回答)

リーマンショックの時の貸付額が約3, 934百万円、東日本大震災の時が約36百万円、昨年の房総半島台風の時が約7百万円である。

(田中健康福祉指導課長)

(要望)

過去の経済危機、災害と比べて、非常にまだ増える可能性も含めて規模が違うくらい貸付が利用されている。

今回のコロナの経済ショック、生活への影響ということがきわめて深刻であるということがこの数字から見えてくる。前回の臨時議会において、県社協や市町村社協における申請窓口の人員拡充も含めて体制の整備をお願いして、県社協において当初7名体制を56名まで臨時雇用も含めて増やしたということである。先程の答弁でも申請についてはまだ増えていくという状況であり、引き続き各申請窓口の体制強化を図っていただきたい。

(入江委員)